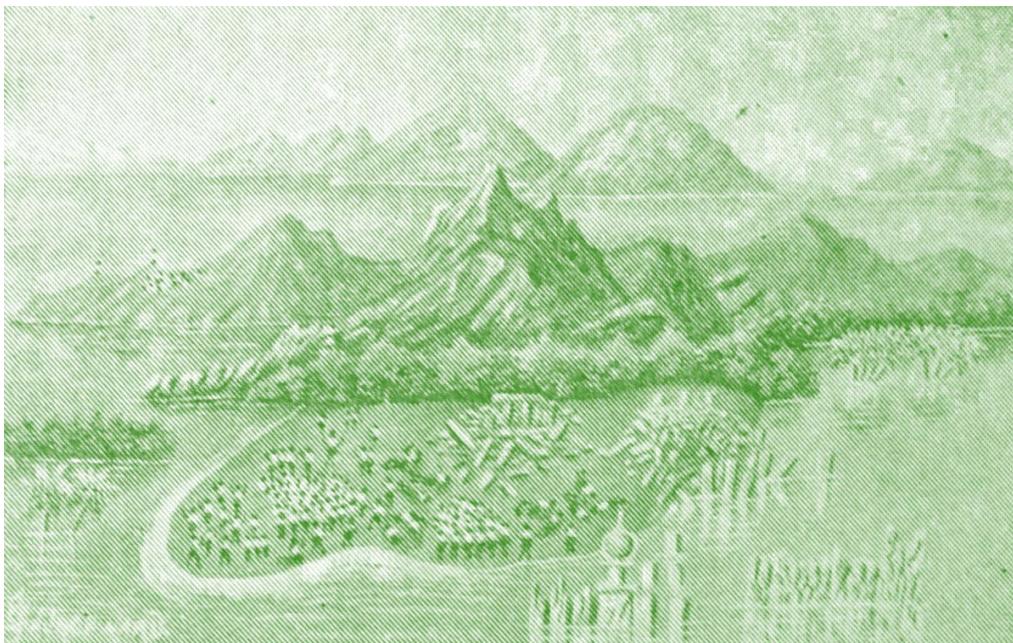


伝説・ム一大陸

太古・太平洋上に存在した地上の楽園



かつて太平洋上のム一大陸は楽園であった
国王はラ(太陽)・ムーと称され
一つの政府を中心に
国民は等しく天地の創造主を敬っていた
谷と草原に満ちた低い丘の土地
蓮の花は咲き、美しい蝶や鳥は歌い
人民(十種族)は高い文明を持ち
美と芸術の都、大航海者たちだった

【1】聖なる靈感の書

宇宙は、初め霊そのものであった
生命もなく、音もなく、ただ静まりかえっていた
あるものはただ、空虚と暗黒のみであった
暗黒の底深く、至上なる霊、偉大なる力そのもの
創造神たる「ナラヤナ」のみが動いていた
神は世界をつくろうと欲し、世界をつくった
地球をつくり、その上に生物をつくった
「ナラヤナ」の七つのすぐれた頭脳は、七つの命令を下した

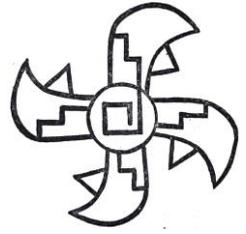
- 一 形もなく空間にあるガスよ、一つに集まれ。（渦巻く塊りに）
- 二 ガスは凝固して地球となれ。（体積ある物質に）
- 三 外部のガスは発散して、水と大気となれ。（太陽の矢・放射線と大気の中の矢とが出会って、光が生まれた）
- 四 地中のガスは、水の上に陸地を持ち上げよ。
- 五 水の中に生命生まれよ。（太陽の矢は、水中の泥中で地球の矢と出会い、泥の分子から宇宙卵をつくり、宇宙卵から命令通りの生命が生じた）
- 六 陸地に生命生まれよ。（太陽の矢は、陸地の土の中で地球の矢と…）
- 七 神々の姿に則り人間をつくれ。人間に地球を支配する力を与えよ。

ナラヤナは人間をつくり、その体内に不滅の靈魂を入れたので、人間はナラヤナのような智慧の力を持つことができた、これで創造は完成した。（一人間が二となった後、男女の生殖から人類が生じた）

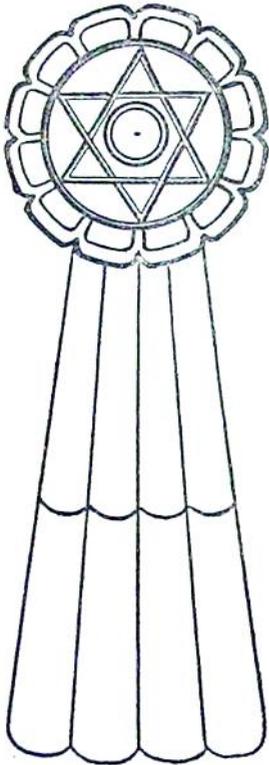
この宇宙は四つの原動力によって、コントロールされている
四つの原動力は創造主の命令や願い意志を伝える実行者である

カフン（一にして四なるもの）より
 ジー（磁気）が回転活動を行う
 生命力は、円軌道を描いて自転する
 聖なる萌芽は（肉体に住み）、又母なる大地へ還る
 人間はその靈魂の力によって
 地球力の振動に勝る振動を起こすことができる
 靈力波の振動を高めれば
 熱力の振動を克服し、火焰にも焼かれない
 肉体的な煩わしきから、頭脳を解き放ち
 心を澄み切った状態にして、一点に集中することである
 神は愛、神（愛）は万物を支配するのだ

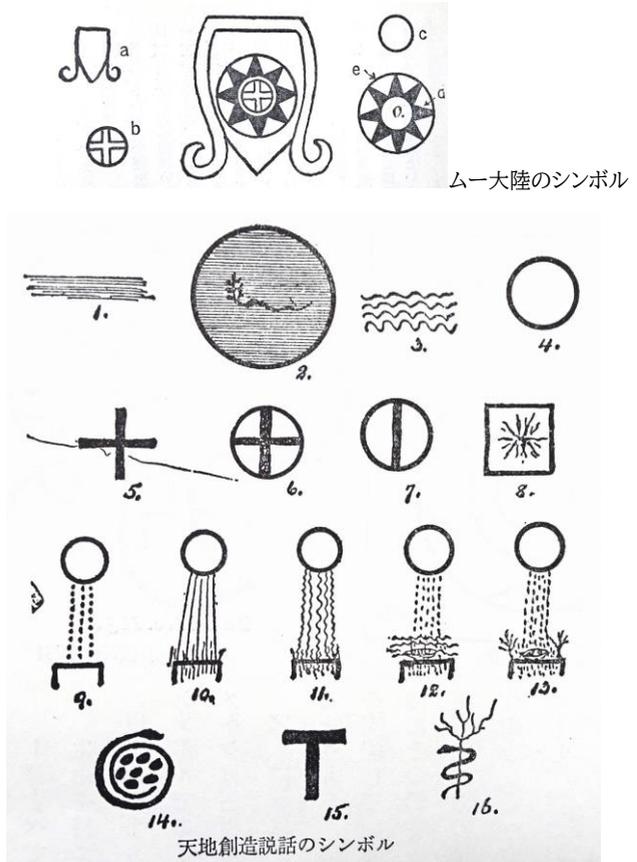
（ナーカルの碑文・ラサ記録より）



創造主から発せられる4つの力



ムー大陸の宇宙図



ムー大陸のシンボル

天地創造説話のシンボル

【2】ラ・ムー

…バル(地の支配者)の星が落ちたとき
ただ空と海のみが残った

七つの都市は黄金の門、透明なる神殿とともに
嵐の中の木の葉のように打ち震えた
宮殿からは火と煙があふれ出た
悲鳴と叫喚があたりにみちた

群衆は逃げ場を求めて寺院や塔に集まった
賢者ムー、最高なる神官ラ・ムーは立ち上がり
群衆に向かって言った
「私はこのことあるを、かねて予言しなかったか。」

輝く宝石ときらびやかなる衣装をまとう
男女らは泣き叫んだ
「ムーよ、われわれをお助け下さい…。」
ムーは答えた
「おまえたちはその召使いや、財宝とともに死ぬであろう。
そしてその灰の中から、新たな民族が生まれて来るであろう。
だが彼らも、多くを得ることより
多くを与えることこそ立派であるということを忘れた時
同じ災いは彼らの上に降りかかるであろう。」

焰と煙はムーの言葉をかき消した
国土とその住民は切れ切れに引き裂かれ
奈落の底に飲み込まれた
ムーの国土は沈み、その頂のみ水の上に現る
つむじ風は吹き荒れていた…

.....

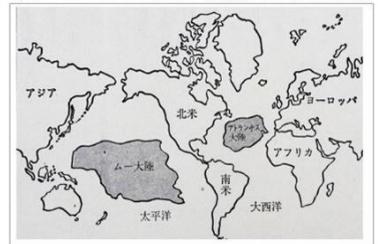
【3】聖ナーカル兄弟団

ムー大陸の首都・ヒラニプラを発ったナーカル達は
アジアやチベット方面に「聖なる靈感の書」を伝えていった…
チベットの僧院にその記録が残っている……………

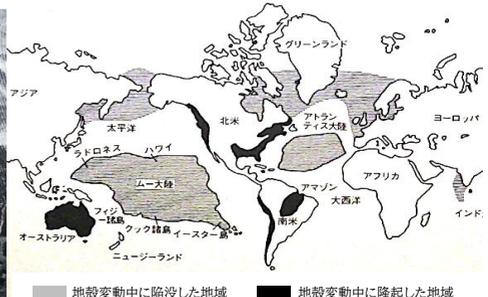
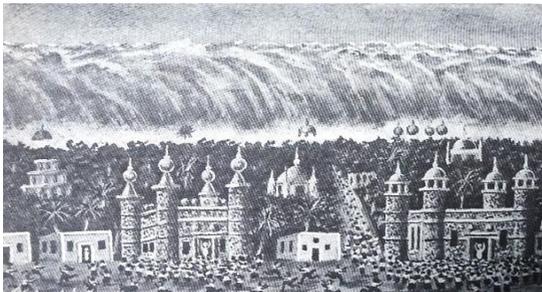
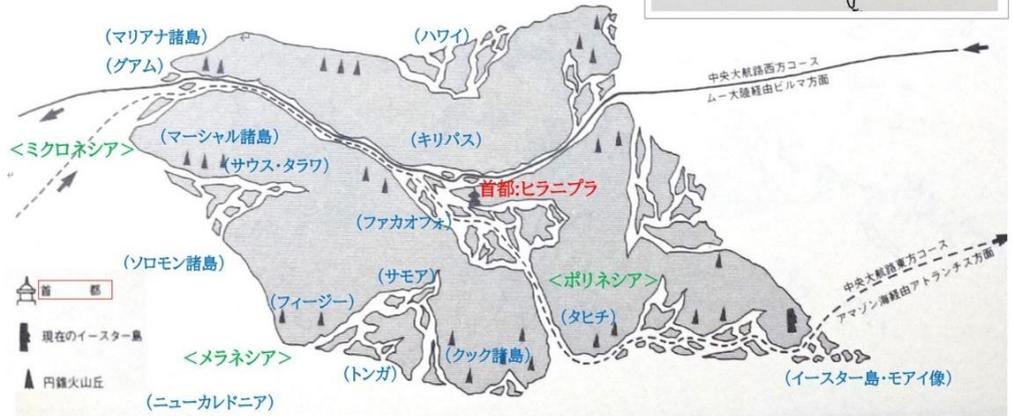
自然と共に、幸福・平和・喜び・自由を謳歌していた楽園は
人々の利己主義…虚栄・所有欲・有頂天・貪欲・好嫌
金掛主義・競争・分裂等により
自然が介入し、崩壊し沈没してしまったのである
太西洋上のアトランティス大陸も同様であった

12000年前、大崩壊を目前にしたムー大陸

参考原図:「失われたムー大陸」チャーチワード「ムー大陸の謎を解く/小泉源太郎」
(原図の上に世界地図を参考に、現在の地名を入れてみた/位置はおおむねの目安)



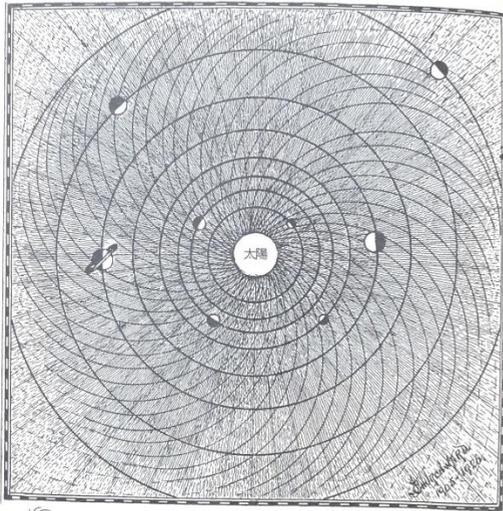
(小笠原諸島)



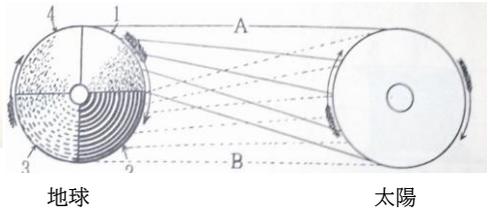
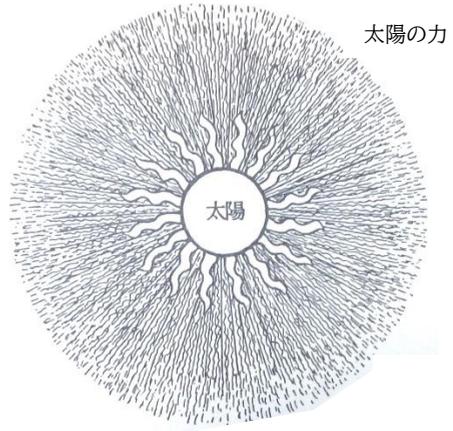
■ 地殻変動中に陥没した地域 ■ 地殻変動中に隆起した地域

【4】ムー大陸の宇宙科学

〈太陽と惑星の推進力〉



 1	 2	 3	 4
Forces propellent	Forces magnetic	Neutral zones	Planets
1-推進力 太陽から照射される曲線、遠心力	2-磁気 点線。磁力を含んだ太陽の力	3-中立地帯 黒い線。惑星の中立地帯	4-惑星

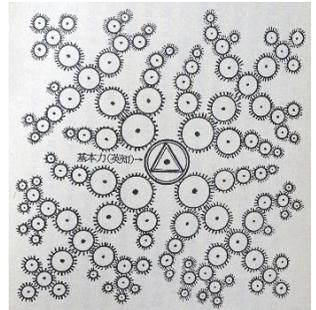
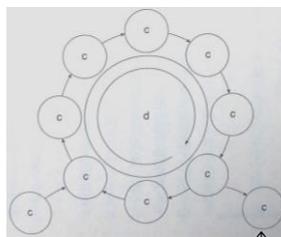
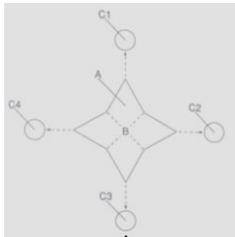


〈カフン&ジー〉

カフン=1にして4なるもの

ジーの働き

(基本力=英知)



(ジェームズ・チャーチワード)

【5】ムー大陸の興亡

レムリア(ムー)は太平洋の諸島を含む広大な大陸であった。彼らはきわめて勤勉で活動的な人種であり、高度の感受性と直観力を持っていた。彼らは精神感応の方法によって互いに会話を交わすことができたし、彼らの活動は主として自己の実体の有するより大きな英知によって導かれたので、驚くべき業績をあげることができた。また宇宙の科学において高度に進歩していた。そして活動の諸法則の理解によって地球の諸元素に対するすばらしい支配力を持っていたのである。

住民は永遠の若さを保って華やかな人生の行路を歩んでいた。平和、喜び、自由な表現という宝は皆のものであった。ところが悪魔(サタン)が…虚栄と所有欲が彼らのエデン的生活に忍び入り、
‘わが物と汝の物’の考えと共に貪欲が起こった。
…誰もが聖なる視力を失った。
…自然が正当なやり直しを求めたために
…かつての美しい花園の国に大地割れが現れた。
…大津波…レムリア(ムー)は消滅した。

レムリア(ムー)は、美と芸術にたいする利己的な崇拜に転じたが、アトランティスは、金駆け主義の崇拜者となった。競争が生まれ、個人的な企業が人間を思想と行為の両面で分裂させた。そして…自然の手によって排除された。

(ジョージ・アダムスキー)

【6】太陽系・地球文明の変遷

〈地球創世記・初期の民族〉

トリテリア民族…自然の法則に完全に協力した人々

彼らは…元素の現象化の原因を理解していた。

親和の法則…諸元素は完全に彼らの命令に従った。

地上はエデン的な美の完全な表現だった。

彼らは地球上で一定の期間奉仕した後

他の太陽系へ宇宙船で運ばれた。(G・A)

〈ムー・母なる国の伝承／参考書を基に推察〉

(21C 初頭より)	(紀元年数)	
5万年以上前～		・地球文明ムー存在
16,000年前	-14,000年	・日本縄文時代～3,000年前
12,000年前	-10,000年	・ムー大陸の沈没
11,000年前	-9,000年	・アトランティス大陸の沈没？
9,000年前	-7,000年	・マヤ文明滅亡 ・古代黄河文明
7,000年前	-5,000年	・古代エジプト文明
6,000年前	-4,000年	・古代メソポタミア文明(シュメール)
5,500年前	-3,500年	・古代インダス文明
5,000年前	-3,000年	・古代ギリシャ青銅器時代
3,000年前	-1,000年	・ノアの大洪水
2,600年前	-600年	・アーク日本伝来
2,100年前	-100年	・旧約聖書編纂(紀元前700～100年)
2,000年前	0年	・救世主・キリストの降臨
50年前	1,952年	・宇宙時代の幕開け
(近未来)	2,0XX年	・救世主の再臨・宇宙交流時代
	2,0XX年	・太陽系の崩壊・新天地への移住



月面から昇る地球 2008.9.30

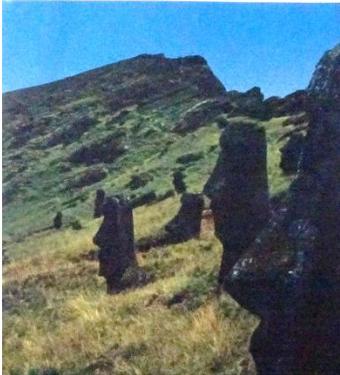
月探査衛星「かぐや」撮影(JAXA)

【参考書】

失われたムー大陸

—太平洋に沈んだ幻の大帝国—

ジェームズ・チャーチワード著
小泉源太郎訳



はるかな昔、太平洋上に
ムーという大陸があった

著者/ジェームズ・チャーチワード (1931) 訳者/小泉源太郎 大陸書房 1969年

The Lost Continent of Mu

- 01-失われたエデンの園
- 02-輝ける太陽の帝国
- 03-ムー大陸の大陥没
- 04-太平洋に眠るムーの遺跡
- 05-人類最初の宗教
- 06-アトランチス大陸と地中海
- 07-北米大陸の古代遺跡
- 08-中米の埋もれた都市
- 09-東洋の神秘的な国々
- 10-栄光の都バビロンへの道
- 【ナーカルの碑文/インド古寺院で発見】
- 1-天地創造と人類誕生
- 2-地下の火による陸の隆起とその後の状況
- 3-全宇宙に存在する偉大なる力の根源と作用
- 4-地球の持つ偉大なる原動力の根源と作用
- 5-地球の持つ原子力の根源とその作用
- 6-生命を創造し維持させる力の根源と作用
- 7-生命の根源・本質、地球の歴史に伴う変化
- 8-人類の創造・本質、他の全ての生物との相違
- 9-地球上の人類の出現、人類の母なる国

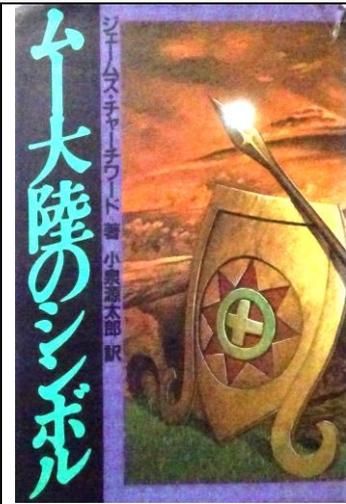


楽園ムーには十種類の民族が
住んでいた(6400万人)

著者/ジェームズ・チャーチワード (1931) 訳者/小泉源太郎 大陸書房 1970年

The Children of Mu

- 序--ムー大陸最後の日
- 01-東方へ伸びる植民線
- 02-有史以前のアメリカ
- 03-メキシコ石板の神秘
- 04-アマゾン海のカラ帝国
- 05-アトランチス大陸の崩壊
- 06-西ヨーロッパの原初を探る
- 07-エーゲ海の先史民族
- 08-ナイル湖畔のあけぼの
- 09-西方へ伸びる植民線
- 10-先史インドの栄光
- 11-砂漠に埋もれたウイグル大帝国
- 12-バベルの塔をめざして
- 13-生きているムーの末裔
- 終--宇宙力と霊力の古代科学
- インドのリシとの出会い、人間の霊力と波動・霊波
重力の超越、熱くない炎、前世、聖なる本源 他



首都ヒラニプラ、王ラ・ムー、
聖なる靈感の書、科学

著者/ジェームズ・チャーチワード (1933) 訳者/小泉源太郎 大陸書房 1970年

The Sacred Symbols of Mu

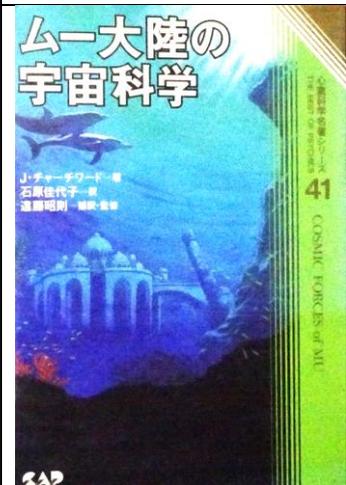
【第1部】 ムー大陸のシンボル

序—人類の母なる国より

- 01-創造主とそのシンボル
- 02-天地創造の説話
- 03-聖なるシンボルの起源
- 04-シンボルが語るムーの悲劇
- 05-アメリカ大陸にシンボルを求めて
- 06-謎の先史民族マウンド・ビルダー
- 07-神話の国エジプトとインド
- 08-科学と宗教を結ぶシンボル

【第2部】 ムー大陸の科学

- 01-地球を支配する力
- 02-大気と光と熱
- 03-生命力と生物の進化
- 04-太陽は冷たい
- 05-地球の二大変動



創造主、無限の英知、万物
を支配する自然の法則

著者/ジェームズ・チャーチワード (1934) 訳者/石原佳代子 中央アート出版社 1995年

Cosmic Forces of Mu

- 01-さまざまな力の原因
- 02-地球のもつさまざまな力
- 03-大気の中で
- 04-光線とは何か
- 05-生命力
- 06-特殊化、すなわち変異
- 07-太陽は冷たい天体である
- 08-地球の自転と太陽との関係



ムー大陸の沈没



地球誕生の秘密、大陸陥没の謎、ムーについての講演録
 著者/ジェームズ・チャーチワード (1934) 訳者/小泉源太郎 大陸書房 1972年

Second Book of Cosmic Forces of Mu

- 01-地球誕生の秘密
 - 02-ガス・チェンバーの大崩壊
 - 03-石炭層の謎を解く
 - 04-地上に山が生まれた時
 - 05-氷河期はあったのか?
 - 06-北米大陸の大山脈
 - 07-南米アンデスの高峰群
 - 08-太平洋海底の大ガス・ベルト
 - 09-世界の屋根ヒマラヤ
 - 10-大西洋とヨーロッパ
 - 11-小アジアのガス・ベルト群
- 【アメリカ心霊研究協会のための講演】
- 黄金時代の書
 - オシリスとイエス
 - 霊力の波動
 - 奇跡の科学性
 - 念力の方法
 - 来世と現世

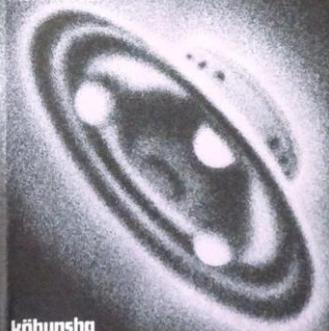


チベット古寺院の碑文板に残された栄光と崩壊の記録
 著者/小泉源太郎 大陸書房 1985年

- 序-「ムー」という名の発見
- 01-幻の大航海時代
楽園、聖杯、聖七都市、他
 - 02-アマゾン海の底を探る
黄金都市、他
 - 03-ムーの国土と文明
古伝、地の丘の国、他
- 終-大異変の周期
1万2千年前、地殻変動、他
- 【ムー大陸キーワード集】
- ・インドのキリスト
 - ・カフンとジー
 - ・大陸移動説
 - ・聖なる靈感の書
 - ・透明なる神殿
 - ・ナアカル
 - ・ムーの国土と国民
 - ・ラサ記録
 - ・ラ・ムー 他

Flying Saucers Farewell 空飛ぶ円盤の真相

G・アダムスキー
久保田八郎訳



hōbunsha

著者/ジョージ・アダムスキー
(1961) (内「悪魔すなわち時
の人/1937」) 訳者/久保
田八郎 光文社 1976年

Flying Saucer Farewell

【第1部】

- 01-なぜ宇宙人は来たか
- 02-この太陽系内の宇宙活動
- 03-宇宙船と重力
- 04-最近の科学の発達
- 05-この太陽系内の変化
- 06-砂漠の足跡
- 07-懐疑論者に対する回答
- 08-デマ
- 09-私は宇宙人から何を学んだか
- 10-聖書と円盤
- 11-形而上学、心霊学、宗教

【第2部】

世界講演旅行(オーストラリア、ヨーロッパ、他)

【第3部】

悪魔すなわち時の人

(古代文明から現在まで人間を支配するルシファーの囁き)

アダムスキーの 宇宙哲学



空飛ぶ円盤の惑星文明とは
代表的コンタクトマンとして宇宙で
の人類の理想を達成した高度文明を
見聞した体験をもとに、宇宙人達の
宗教と科学を超越する生き方を説く

宇宙人の生き方を語る、
宇宙の記憶の書(アタックレコード)
を読み解く(第16章)

著者/ジョージ・アダムスキー
(1961) 訳者/久保田八郎
たま出版 1979年

Cosmic Philosophy

序-真理とは何か

- 01-すばらしい知覚作用
- 02-知覚と思考
- 03-意識とは何か
- 04-肉体、心、意識
- 05-顕在意識と潜在意識
- 06-人間は四つの感覚を持つ
- 07-進化の道
- 08-信念
- 09-真の生まれ変わり
- 10-感情のバランス
- 11-自由意思か自己催眠
- 12-弛緩
- 13-宇宙の言語
- 14-化学的な宇宙
- 15-古代の知恵か現代の進歩か
- 16-過去の文明
(トリテリア、レムリア、アトランティス、他)
- 17-リンゴの木の寓話

エメラルド・タブレット

田中恵美子 訳

大ピラミッドに秘蔵されていた
アトランティス人の英知・護符
原著/トス 解説/M・ドーリル
(1948) 訳者/田中恵美子
竜王文庫 1972年

THE EMERALD TABLETS OF THOTH

序文

- 01-アトランティス人トスの歴史
- 02-アメンティーの広間
- 03-智慧の鍵
- 04-空間の申し子
- 05-ウナルに住み給う者
- 06-魔法の鍵
- 07-七人の主
- 08-神秘の鍵
- 09-空間の自由への鍵
- 10-時間の鍵
- 11-上と下の世界への鍵
- 12-原因・結果の法則と予言の鍵
- 13-生と死の鍵
- 秘密中の秘密
～シャンバラへの鍵
ドアイー ウル ラ (光へ)
ラム アイ ル ガン (自由へ)



母なる国・ムーのサラス

ラ・ムー

その輝かしき象徴なる太陽の恵みを受け
我ら またこの地に甦らん
今はなき母なる都 このムーの心を
復活させんが為に……

ムー 母なる国よ

その輝かしき繁栄と
太陽の恵みをここに集め
私たちはその時こそ
ここから旅立つことにしよう
顧みることの何ひとつなき日には…
遠き遠き空に拡がる宇宙よ
かけめぐる数億の命

(「ウイリアムの書」より)

【ムー大陸の想像図と現地球図・南太平洋の島々】





ムー文明の崩壊後、大西洋上に栄え滅びたアトランティス大陸
アトランティスは、ポセイドンの領地…アクロポリス(高丘城砦)自体の
壁は火のような輝きを放つオリハルコンでおおわれていた…様々な神
を祀る神殿が数多く建てられていて、またその環状の島二つには花園
や訓練所がたくさんあった…都市の軍勢は、全世界に対してその勇敢
さと剛毅さを誇っていた…だがその後、地震と洪水が起こって一日
と悲惨な一夜のうちにことごとく一度に地中に落ち込み、アトランティ
ス島もまた海中に陥没して消滅した…

(プラトン著「ティマイオス」「クリティアス」)